

## は し が き

科学技術の進歩や情報化社会の進展は、社会や個人の生活に大きな変化をもたらし、その結果一人一人に、多様な価値観を生み出したと同時に高校生の学習意識も変わってきたといわれています。また、高等学校への進学率の上昇などに伴って生徒の学力、学習への意欲、関心、進路等にもますます多様化が進み、学習指導等に多くの困難な問題が生じてきているといわれています。国語科教育においても同様の問題が生じていますし、国語力の低下、国語に対する興味・関心や学習意欲を示さない無気力な生徒が増えているなどの指摘がなされ、これまで以上に指導の充実が要請されています。

したがって、生徒の学習に積極的に取り組もうとする意欲や主体的な態度を養い、学習習慣を身につけさせることが国語科教育の重要な役割となっていると考えます。そのためには、生徒の国語力の実態を正しく把握して適切な教材の選定や、多彩な学習活動を取り入れるなど、指導内容や指導方法等に一層の創意工夫が大切となっています。

教育課程審議会の答申のなかでも、いわゆる「自己教育力」の育成を重視して主体的に学ぶ態度や意欲、能力等を育てる必要があることが指摘されていますし、国語科教育に関わることとしては、特に表現力の伸長を図ることや、日本の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視した古典教育の充実などが強調されています。

そこで、この研究は、一般に古典離れが著しいといわれる高校生に対して、古典学習に興味・関心を高め、意欲的、主体的に取り組ませる学習指導はどのようにしたら可能かについて検討し、考察してきたものです。最初に古典学習に関わる意識の実態を調査して指導上の問題点を明らかにし、それに対する具体的な方策を探り、その結果、一つの試みとして指導の過程の中で音読・朗読の活用と、課題学習やグループ学習等を取り入れた生徒の主体的、積極的な学習活動を組織するなどして、生徒の実態に即応した効果的な指導方法等について工夫し、それを授業実践で検証するという方法をとったものです。

ご高覧いただき、日頃の教育実践に役立てていただければ幸いです。

終わりに、校務多忙にもかかわらず、ご協力いただいた研究員の先生方、及び所属の校長先生はじめ諸先生方のご協力に対して、心から御礼申し上げます。

平成元年 3 月 28 日

新潟県立教育センター所長 長谷川 武 雄